

事業実績報告書

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-03	講座名	二ホンミツバチプロジェクト
記載日		団体名・企業名	東谷山二ホンミツバチプロジェクト実行委員会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

既に2018年5月から守山リス研究会として飼育して調査・検討を開始しており、その短い経験から別の活動として参加者による情報調査や学習から得た経験知や情報を報告してもらいながら交流し、自分の環境で二ホンミツバチを飼育できるようにいっしょに、自ら調べ学び報告してもらい話し合って決めていく姿勢で参加してもらう講座です。すでに作成済みの巣箱6セットで2-5月の分封を確保して、3-4巣箱にまず拡大維持していく。その維持をしながら8-9月までには巣箱を材料集めから、いっしょに実施して、作成も実施してもらい2019年後期（10-3月）に各自の巣箱を1セット以上を作成して新規合計6セットを作成して2020年の2-5月の分封を確保してひろげていく長期の活動となります。



※写真1の説明

7月ミツバチのハチミツ採取状況

9月女性への巣箱作成支援

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

当初、何人の参加があるか非常に心配でしたが、10名前後の希望者がでて毎月1回の活動でもきちんと参加してくれ、その学びの姿勢に驚きました。その結果これなら「二ホンミツバチ飼育者養成学校」というようにしても問題ないと判断しました。2年間で卒業しても卒業生は一定会費を払って巣箱の提供・借用、分蜂獲得支援、採蜜支援、絶滅の場合の分蜂譲り受けなどが相互にできるように一種のギルド組合を形成して在校生・卒業生が助け合う活動にしていくことで一致しました。そのため共育講座後期は申請せず、この10人前後で2020年の後期まで継続し、重複しながら2020年4月からなごや環境大学共育講座として2期生を新規に募集し、1期生の活動は2020年なごや環境大学共育ゼミナールとして活動していけそうで、このサイクルとシクミを継続していければ良いと一致しました。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

参加者のうち過去に経験された方が2名おられましたが、毎回掃除し、巣箱の構造を知るにつれて、「こんなことやったことがない」という意見がでて、「掃除をしない、構造の不備、夏場の気温対策、設置場所などが不適切で、逃亡したり全滅した理由だとやっとわかった」と言われこの活動の目的が伝わった瞬間でした。